

## ●ライフスタイルデザイン研究所の紹介

(株)安井建築設計事務所では、ちょうど1年前の3月18日に「ライフスタイルデザイン研究所」を設立させました。今回は、このライフスタイルデザイン研究所と現在の活動状況について紹介させていただきます。

「ライフスタイルデザイン研究所」とは  
近年、社会状況の変化に対応して、人々のライフスタイルは複雑多様に変化してきています。この変化が都市や建築をどのように変えていくのか。このことは都市計画や建築設計を行っている組織として常に関心事であり研究のテーマでもあります。

そこで、こうした観点から社内外の“知恵の連携と統合”を進めながら、これからの都市計画や建築設計について、さまざまなテーマのプラットフォームを用意し、多くの研究と提案を行っていきたいと考え、「ライフスタイルデザイン研究所」が設立されました。

「ライフスタイルデザイン研究所」の活動状況  
現在、社会トレンドやライフスタイルの変化を研究することが重要と考え、人口減少や少子高齢化などによる“逆都市化”にスポットを当て、まず「シュリンキング・シティ（縮小する都市）研究会」を立ち上げて活動を行っています。

「シュリンキング・シティ研究会」での具体的な研究テーマは2つあり、ひとつは、“廃校となった学校のコンバージョンによる縮小都市への対応研究”を行っています。もうひとつは、“縮小都市における駅前開発及び既存商店街のあり方研究”を行っています。

なお、詳しくは弊社ホームページに掲載しておりますので、是非ご覧ください。  
<http://www.yasui-archi.co.jp/service/wisdom/01.html>

また、新たな研究課題の掘り起こしも行っています。皆様のご意見等をお聞かせいただければ幸いです。

須藤裕行（(株)安井建築設計事務所 ライフスタイルデザイン研究所）

## ●地域力を活かした子育て施策

集中的・計画的な次世代育成支援対策の取組を促進するために、平成17年から「次世代育成支援対策推進法」が10年間の時限立法として施行され、市町村に5年を一期とする地域行動計画の策定が義務付けられた（次世代育成支援行動計画）。今年度は後期計画策定期間で2月から3月にかけて次々と素案が出され、保育所待機児童解消等の重点事項の数値目標や、子育てに関する全分野の具体的な事業をみることができると、ぜひ自治体のホームページ等を閲覧していただきたい。

東京・神奈川でのユニークな事例として、寄附を募り子育て支援事業を団体・個人の活動に助成する「子ども基金」（世田谷区）、子どもたちが公園で安全に楽しく遊ぶことができるようにボランティアが遊びを支え見守る「パークエンジェル育成事業」（足立区）、研修を受けた子育て経験者等がホームビジター（ボランティア）として家庭に入り、親の話を「傾聴」し、家事・育児については「協働」して一緒に取り組む、自治体では国内初の「ホームビジター派遣事業」（清瀬市）、市内大学・子育て支援団体・行政の3者による子育て支援イベント「かまくらママ&パパ'S カレッジ」（鎌倉市）などがある。これまでの「家庭の子育て」から「地域社会全体の子育て」に向けて、地域力を活かした取り組みである。その先駆的事业として「ファミリー・サポート・センター」がある。厚生労働省の補助をうけて市町村が設立・運営する事業で平成6年から実施、育児や介護の援助を受けたい人を行いたい人が会員となり助け合う会員組織で、私も利用させてもらっている。

子育て家庭が最も求めていることは、新政権の「子ども手当」をはじめとした経済的支援と、教育や保育等のサービスとの両立と言われている。しかし、こうした地域主体の取り組みは、子育て家庭だけのことではなく、関連団体のネットワーク化、子育てを終えた方や高齢者の居場所につながっている。地縁、血縁機能を地域で持たない家庭が多い時代だからこそ、地域でのコミュニケーションと相互援助のしくみづくり、それを育む個々人の意識が大切なのである。

倉岡明子（第一計画部）

## ●ガーナ・ベトナム生活比較論

---

ガーナとベトナムは私が生活をしたことのある開発途上国です。ガーナには4年前にボランティアとして2年間、ベトナムにはコンサルタントとして昨年から1年弱滞在しています。そんな中で、2つの国の共通点や相違点をいろいろな場面で目にします。そこで、書籍やインターネットでは得にくい生活の相違について、簡単に紹介したいと思います。

開発途上国の分類において同じ“低所得国”とされているベトナムとガーナの目立った共通点は、植民地としての経験があることとサッカーが盛んなこと。

首都における大きな違いは、公共インフラの整備水準。ガーナでは首都でも停電と断水が当たり前。停電になれば水道も止まってしまい、シャワーや水洗トイレが使えなくなり、水があれば大丈夫なんてことも言っていられません。一方、農村においては、正確なインフラ普及率は定かではありませんが、電力の供給が不安定で水道は少なく、井戸水や雨水を利用するという点では似ています。環境への意識が低い点も同じで、至る所にゴミが捨てられ、皮肉にもそれらのゴミを拾い処理することが、一つの職を生んでいるというのも共通の事実です。

次に移動手段。ベトナムにおける主な交通手段はバイクタクシー、タクシー、バス。タクシーは電話で呼ぶことも可能で、料金メーターもついています。バスも立派とは言えませんがきちんとバス停が設置されています。一方、ガーナでは、トゥクトゥクと呼ばれるバン、タクシー、バスなどがあります。トゥクトゥクはルートが決まっており、定員（22～30名）になるとターミナルを出発しますが、満員になるまで数時間待つことも。途中乗下車の場所は決まっていますが、目印は何もありません。タクシーはひたすら道路で待つシステムで乗合も可能なので、地方に行くとき乗合で利用することが多くなります。

こんな2つの国が同じ水準の国になるのはいつの日か。都市計画や農村計画が進められているベトナム、一方、エイズやマラリアが蔓延するガーナでは、保健や教育分野が開発の中心です。このような保健・教育の問題を解決するためにも、都市・農村計画や交通計画を発展させたいですね。

渡邊千華（海外室）

---

発行責任者：代表取締役 庄山 高司  
事務局：株式会社アルメック 業務部  
東京都目黒区青葉台 1-19-14  
電話 03-5489-3211・FAX 03-5489-3210  
Eメール [hotnews@almec.co.jp](mailto:hotnews@almec.co.jp)  
ホームページ <http://www.almec.co.jp/>

---

Copyright 2010 ALMEC Corporation. All rights reserved.